

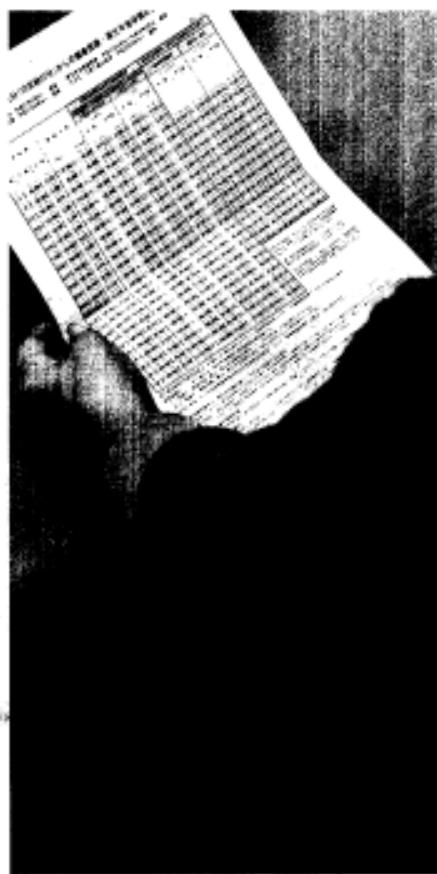
教育資金 生活費に／変わる息子の夢

ワーキングプア

沖縄の貧困・子どものいま
第2部（2）

多職務に陥っていた母子家庭の女性(43)は、その後、債務整理で生活を持ち直した。派遣社員として働いていた「コールセンター」は中国への業務移管で閉鎖されたが、正社員として別のコールセンターで働くようになった。だが、派遣時代よりも健やかな姿でローンが支払えず車を手放した。部活に勤む早い冬場は練習を休ませることも増えた。「プロの選手」だった息子の夢は、いつの間にか「正社員のシェフ」に変わっていた。「お金がある」と思われても困

正社員で苦しみ増



手取り、手当て減額

るし、ないと思われる手配をかけるだけ」と思い、息子には自分の給料や生活に掛かる費用口にする。

派遣時代の手取り給与は10万円前後だったが、正社員は約13万円。昨年9月に基本給が千円昇給したが、そのため各種保険料の等級も上がり、手取り額は逆に減った。満額の約4万円が年3回支給されていた児童扶養手当も、所得の増加で約3万3千円に減額された。「福張った結果が『減給』」。給料や児童扶養手当の額を決めるのではなく、手取り額を見てほしい。「これなら頑張らない方がいいと思ってしまう」と、やり場のない怒りがこみ上げる。

息子の中学入学資金として貯蓄に回していた児童扶養手当を生活費に充てる」とも出でた

た。正社員の道を選んだのは、

息子の進学を意識して必要となる教育資金を蓄えるためだった

が、少なくなりた児童扶養手当に手を出さないと生活できなくなつた。本末転倒の現状に、ため息が漏れる。

女性は生活苦でローンが支払えず車を手放した。部活に勤む早い冬場は練習を休ませることも増えた。「プロの選手」だった息子の夢は、いつの間にか「正社員のシェフ」に変わっていた。「お金がある」と思われるでも困

るが、正社員では午後7時まで働きしなれば「お年玉を貰してまだ使える」と喜んで新しいものを欲しからぬ。生活費がそのままは残業代が出ていた

保険料の等級を示した資料に目を通す女性一本幽内

さんから、「もう一つはお母さんは丈夫だから」と語った。(子どもの貧困取材班)

(39面に続く)

をつまびらかに説明している。給料はいくらなのか、電気、ガス、水道代はいくらかかるのか、息子も手を握っている。

いただけ」と返した。プレゼンターが減る」と文句を書ひた